琉球大学学術リポジトリ

草稿『南洋群島の研究』関係（連続しないバラ草稿）

メタデータ	
	言語:
	出版者:
	公開日: 2018-04-16
	キーワード (Ja): 矢内原忠雄
	キーワード (En): Yanaihara Tadao
	作成者: 矢内原, 忠雄
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38087

矢内原忠雄文庫

史　料　名	草稿『南洋群島の研究』関係（連続しないバラ草稿）
封筒番号	250
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 14 日
撮　影　者	富士写真フイルム　株式会社
備　　　考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 250

史料名	草稿『南洋群島の研究』関係（連続しないバラ草稿）
資料形態	B4原稿用紙
枚　数	6
頁　数	7
縦（cm）	
横（cm）	
厚さ（cm）	
書誌的事項	南洋 『南洋群島の研究』P221の記述とよく似た原稿あり。原稿6枚は頁が連続していないが、『南洋群島の研究』の草稿である可能性は高い。 左肩に19と書かれた原稿のみ裏書きあり 今泉分類記号： Y

琉球大学附属図書館

ガチヤパルのヴルオル、トミールのアリブ、及びウルルのウアイと呼ばるる四つの土地はヤップ全島中最も格式高き土地であり、その所有者はヤップの大酋長で最高の社會的地位を占むる。而してヤップの他の土地は男系相續の原則なるに拘らず、右四つの土地のみは女系相續にて同一トーテム内に留るものとせられるといふ（Müller. S. 252）。即ち氏族社會の原制度を保存するものであつて、之等四つの土地が特に神聖視せられしが故であらう。

上述の如くテユガンはヴルツエ（一等民）の村の中の特定の土地であつて、之を所有する者が大酋長となる資格者である。それは土地の名稱であつて、階級の名稱ではない。ミユラーがヴルツエ、ウルンに次ぐ階級名としてテユガンを挙ぐるは（Müller. S. 234）誤謬である。

以上を要するにヤップの土地制度は個人的なる土地私有制が意外に発達して居るが、現實に土地が経済取引の対象として賣買賃貸せ

東京 文房堂製

はサイパン、テニアン両製糖所に於て各々約三十五万円に上つたが、その八割は直に送金せられるもの（主として沖縄へ）と推定せられた。平年に於ける送金額も両島にて五十万円に達すと言はれる。この送金が移民の郷里に於て如何に処置せられるかは其地方の経済に取りて重要なる意義を有するのみならず、南洋群島に対しても決して無関係でない。近年沖縄縣より南洋群島への自由移民が激増しつつあるが、その渡航費は之等先来移民の送

金によりて支弁せらるるもの多い。この限りに於ては送金せられたる貨幣は労働力なる形態に於て南洋群島に還流するものであり、會社にとりては移民募集費の節減であり、沖縄縣にとりては過剰人口の排出である。右以外に於て移民送金が沖縄縣に於て生産資本として作用せしめられるか、或は住宅や墳墓の築造又は宴會酒食等不生産的消費に充当せられるかは、沖縄の疲弊救済に對してのみならず南洋群島に及ぼす間接の効果にも大なる差異

東京 文房堂製

六八一人から四六、四七七人へ、即ち七九六人の増加であるから、その増加率はチヤモロ族に大であり、カナカ族だけで見れば極めて微弱である。

次に支廳別について見れば右の期間に於ける人口増減はサイパンは三、三九八人より四、一八三人へ即ち七八五人増、ヤツプは八、三三八人より六、三五五人へ即ち一、九八三人減、パラオは五、七五四人より六、〇七〇人へ即ち三一六人増、トラツクは一四、七八八

人より一五、二一四人へ即ち四二六人増、ポナペは六、六三八人より八、四二四人へ即ち一、七八六人増、ヤルートは九、五八九人より九、八六八人へ即ち二七九人増である。之によればサイパン及びポナペ両支廳管内の人口が確實に増加し、ヤツプは激減し、其他の支廳管内の増加は僅少に止る。サイパン支廳管内の増加はその島民の大部分を占むるチヤモロ族の増加に外ならない。他の支廳管内の島民人口は殆んどすべてカナカ族であるが、

東京 文房堂製

であった。　かくの如き大規模の建築は、男子が自然生産物たる食物の獲得は勿論炊事の労働に迄従事する中央及び東カロリン諸島に於ては到底考へ得られざることである。

　島民の建築発達程度は南洋群島中ではマーシャル及びトラックに於て最も低い。蓋し建築用材に乏しいが故である。此の両島にては今日にても尚、床も柱も窓もなく、地面に屋根だけ置いた原始的小屋内に犬、豚、雞等と雑居せる者が見受けられる。ヤップ及びパラオは最も建築が進んで居るが、その様式は大いに異つて居る。ヤップでは長き六角形に地壇を築きてその上に床を張り、パラオにては矩形の地形に柱を立てて床を張る。ヤップ及びパラオ住家建築の様式は其島の共同集會所の建築と同一である。氏族的社會組織を有したる島民生活の中心は住家に無くして集會所にあり、住家は利用よりすればその附属物、形式よりすればそれの模写であり縮圖である。

（但しポナペには住家 Im（イム）と集會所 Nae（ナーニュ）とは

東京 文房堂製

0.060
24288) 147100
137220

65.88177
× 6
395298.62

9.78
× 5
48.90

は債務支拂に充つべき程の差押物件を有しないからである。

ヌポナペ、ヤルートの島民の中にはその生産物を旅行者に賣らんとするに際し、價額について狡猾なる掛引を為す者すらあり、日本海軍の占領当時派遣せられし學術視察團の一人~~又自己所有の畑地に尊き椰子其他の果實を賣らんとせり~~小樽高商教授寺田貞次氏の報告中に、「ヂョカーヂュ島にては土人は吾人に対し盛に椰子製帽子其の他を示し賣り付けんとし、又自己所有の畑地に尊き椰子其他の果實を賣らんとせり。其の價額の如きも驚くべき掛引を有し、：：帽子の如き普通三馬克なれども必ず四馬克と稱す云々」と言つて居る（文部省五三二頁）。但し交換の対價として與ふ限り多くを獲得せんと欲する事は必ずしも貨幣經濟普及の証拠となすに足らず、物々交換にありても同様のことが行はれる。ただその生産物を貨幣に代へんとする処に、島民貨幣經済の普及が認められるのである。

東京 文房堂製

発起したるものにて、現在（昭和八年夏）會員七十五名、資金一万六千円に達した。一口一ケ月一円を義務出金額として始めたるも、それ以上の出金額には制限なく、通常一円以上を出資する。之を以て事業資金を要する者、借金返済不能にて土地が抵当流れにならんとする如き場合、病気治療費に困る者等に月一歩の利子を以て貸與し、又貧困者には救済費として贈與する。貸與若くは贈與は會員以外の同族者に対しても為す。貸付金の利子收入は出資額に應じて分配するといふ。即ち共済信用組合の性質を有するものである。

右は島民中最も進歩せる分子のことであるが、カナカ族はその所有貨幣を多くは地中に埋藏する。且つ彼等の申告は必ずしも正確でないから島民の貨幣所持量を推定することは一層困難であるが、参考の為めヤップ支廳の島民経済調査（昭和四年一月乃至二月）の結果を左に掲げる。

東京 文房堂製